

# 2019年度 第1四半期 決算概要

2019年5月8日  
サントリー食品インターナショナル株式会社

サントリー食品インターナショナル社、三野でございます。

それでは早速、2019年度第1四半期決算について、説明いたします。

2ページをご覧ください。

	2018年 1-3月実績	2019年 1-3月実績	対前年			
			増減(億円)	為替中立	増減率	為替中立
売上収益	2,771 億円	2,857 億円	+86	+121	+3.1%	+4.4%
営業利益	266 億円	178 億円	△88	△85	△33.1%	△32.2%
既存事業ベース* 営業利益	154 億円	180 億円	+26	+29	+16.8%	+19.3%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	205 億円	107 億円	△98	△95	△47.7%	△47.1%

\*「その他の収益」「その他の費用」のうち非経常的な要因により発生した要素を除いた値

©2019 SUNTORY BEVERAGE & FOOD LIMITED. All Rights Reserved.

売上収益は、前年同期に比べて、3.1%増の2,857億円、為替中立で、4.4%増となりました。

営業利益は、前年は加工食品・事業売却益を116億円計上した影響で、33.1%減の178億円となりましたが、これらの非経常的要因を除いた既存事業ベースで、16.8%増の180億円、為替中立では19.3%増となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年の売却益は非課税だったことなどから、前年同期に比べて、47.7%減の107億円となりました。

2月の通期決算発表時にもご説明申し上げたとおり、「稼ぐ力の再構築」といった構造改革に鋭意取り組んでおりますが、依然、当社を取り巻く環境は厳しく、加えて、これから最盛期である第2、第3四半期を迎えます。年間業績予想の達成に向けて、着実に目の前の課題に取り組んで参ります。

3ページをご覧ください。

	売上収益	対前年				セグメント 利益	対前年			
		増減(億円)	為替中立	増減率	為替中立		増減(億円)	為替中立	増減率	為替中立
日本	1,507 億円	+2	-	+0.2%	-	65 億円	+13	-	+24.8%	-
欧州	484	△34	△6	△6.6%	△1.3%	39	+2	+5	+6.0%	+13.2%
アジア	555	+112	+114	+25.2%	+25.8%	72	△102	△102	△58.6%	△58.4%
既存事業ベース							+11	+11	+17.0%	+18.4%
オセアニア	129	△7	+2	△4.9%	+1.4%	14	△1	△1	△9.7%	△4.1%
米州	183	+13	+9	+7.4%	+5.5%	15	△0	△0	△0.4%	△2.2%
調整額	-	-	-	-	-	△27	+1	+0	-	-
連結	2,857	+86	+121	+3.1%	+4.4%	178	△88	△85	△33.1%	△32.2%
既存事業ベース							+26	+29	+16.8%	+19.3%

セグメント別の売上収益および利益です。

次ページ以降で、各セグメントの状況を詳しくご説明します。

4 ページをご覧ください

売上収益

増減率

セグメント利益

増減率

1,507 億円 +0.2%

65 億円 +24.8%

- 主力ブランドが好調で、販売数量は+2%。
  - ・「天然水」「BOSS」が伸長。
  - ・「特茶」「BOSS」ショート缶は、販売強化の取り組みが奏功し、いずれもマイナス幅が縮小。
- 最盛期のマーケティング強化に向けて、ブランド投資時期を2Q以降にシフト。その結果、利益は対前年で増加。



©2019 SUNTORY BEVERAGE &amp; FOOD LIMITED. All Rights Reserved.

4

日本よりご説明いたします。

飲料総市場は、数量ベースではほぼ前年並みと推定される中、当社は主力ブランドの「天然水」「BOSS」が引き続き好調に推移。2%増となり市場を上回りました。

売上収益は、チャンネル構成ならびに容器構成の悪化があり、また、「トクホ+機能性」カテゴリーはトレンドが回復しつつあるものの、全体の伸びを下回った結果、前年と比べて、0.2%増の1,507億円となりました。

セグメント利益は、昨年度より高収益商品の強化を進めた結果、「特茶」並びに「BOSS」ショート缶のマイナス幅が着実に縮小し、商品構成によるマイナス影響が縮小。加えて、コスト削減活動進展の結果、売上総利益の段階ではほぼ前年並みとなりました。その上で、マケ投資投入タイミングを、第2四半期以降にシフトした結果、対前年と比べて、24.8%の増益となりました。ただ、このブランド投資のタイミングのズレがなければ、セグメント利益はほぼ前年並みです。

5 ページをご覧ください。

高付加価値・高収益モデルの確立

SCMの構造革新

自販機ビジネスの事業構造変革

日本における「中期構造改革」の進捗について、ご説明します。

「高付加価値・高収益モデルの確立」に関しては、特に「特茶」において、ユーザーの健康増進の取り組み全体をサポートする「特茶プログラム」を実施するなどし、当期の「特茶」は対前年3%減と、昨年同期の約2割減と比べて、トレンドが回復基調にあります。

4月2日に「特茶」リニューアル、昨日（5月7日）に機能性表示食品「伊右衛門プラス コレステロール対策」を新発売するなど、積極的に活動を継続いたします。

「SCMの構造革新」に関しては、「サントリープロダクツ 宇治川工場」「榛名工場」、長野県大町市「サントリー天然水」第4の水源において、生産能力拡大に着手しております。ただし、これらが業績に貢献するのは主に来年以降になります。今年に関しては、クラフトボスPET容器の軽量化を始めとしたコスト削減活動並びに、物流能力の確保など最盛期の供給能力の増強に取り組んでおり、突発的なコストの発生リスク低減を進めています。

「自販機ビジネスの事業構造変革」に関しては、販売トレンド改善、オペレーションコスト削減に取り組んでいますが、厳しい環境下、成果が出るまで時間がかかります。

これらの活動に加えて、5月1日付で大容量ペットボトルの値上げを実施しました。多くの取引先様との商談も大半で合意に至りましたが、今年の業績に与える影響額は、値上げによる販売数量の変動状況等にも左右されるため、現時点では具体的な額は見通してはおりません。

6ページをご覧ください。

売上収益

484 億円

増減率

△6.6%

為替中立

セグメント利益

39 億円

増減率

+6.0%

為替中立

売上

増減率

為替中立

フランス  
(\*1)

200 億円

△7.6%

△1.7%

「Orangina」「MayTea」は伸長するも、「Oasis」の販売減等で減収。

英国  
(\*2)

135 億円

△0.7%

+4.2%

「Lucozade Energy」が引き続き成長し、増収。

スペイン  
(\*3)

88 億円

△13.1%

△7.6%

業務用トニック市場縮小の影響を受け、「Schweppes」が苦戦。回復には時間を要する見込み。

(\*1) フランス、ベルギー (\*2) 英国、アイルランド (\*3) スペイン、ポルトガル



©2019 SUNTORY BEVERAGE &amp; FOOD LIMITED. All Rights Reserved.

6

次に欧州です。

売上収益は、スペインの低迷が引き続き影響し、為替中立で、1.3%の減収となりました。

セグメント利益は、フランス・英国の販促広告費が、第2四半期以降へ期ズレしたこと等により、為替中立で、13.2%の増益となりました。

フランスは、市場が若干低迷しておりますが、主力の「Orangina」そして「MayTea」が伸長しました。他方、「Oasis」が前年を下回るなど、やや減収となりました。

英国は、「Lucozade Energy」が引き続き成長しており、為替中立で増収。

スペインは、業務用総市場が低迷する中、特にトニックカテゴリーが縮小。結果として、主力「Schweppes」の苦戦が継続、厳しい業績となりました。ポートフォリオの見直し、営業体制の改革を、新体制で行っておりますが、改革が軌道にのり業績回復に貢献するには、今しばし時間がかかると見えています。

7ページをご覧ください。

	<b>売上収益</b>	<b>増減率</b>	<b>為替中立</b>	<b>セグメント利益</b>	<b>増減率</b>	<b>為替中立</b>
	<b>555 億円</b>	<b>+25.2%</b>	<b>+25.8%</b>	<b>72 億円</b>	<b>△58.6%</b>	<b>△58.4%</b>
既存事業 ベース					<b>+17.0%</b>	<b>+18.4%</b>

	売上	増減率	為替中立	
飲料 (ベトナム)	208 億円	+18.9%	+18.9%	エナジードリンク「Sting」、茶飲料「TEA+」等 主力ブランドが好調で大幅増収。
飲料* (タイ)	161 億円	+213.4%	+208.0%	主力の「Pepsi」等が好調で増収。
健康食品	134 億円	△3.4%	△3.0%	引き続き「Essence of Chicken」が苦戦。

\*飲料（タイ）：前年実績は1ヶ月分のみ。（昨年3月に事業を開始したため）



©2019 SUNTORY BEVERAGE & FOOD LIMITED. All Rights Reserved.

7

次にアジアです。

売上収益は、飲料事業が引き続き好調に推移し、為替中立で、25.8%の増収となりました。

なお、タイの飲料事業は昨年3月より事業を始めたことにより、今年1-2月分の影響除きだと、アジア全体で10%程度の増収です。

セグメント利益は、事業売却益の影響を除いた既存事業ベースでは、為替中立で、18.4%の増益となりました。

同様にタイ飲料事業の影響を除くと、一桁半ばの増益です。

飲料事業は、ベトナムが引き続き好調で、2割近い増収。

タイも、飲料総市場が回復する中、主力の「Pepsi」等が好調に推移。

またインドネシアでご好評をいただいている「goodmood」を

2月にタイ、4月にベトナムでも発売するなど、アジア地域内でのブランド展開に着手いたしました。

健康食品事業は、「Essence of Chicken」が、タイに加えて、これまで成長を支えてきたミャンマーを中心とする新興国でも苦戦し、減収となりました。

8 ページをご覧ください。

## オセアニア

売上収益

129 億円  $\Delta 4.9\%$   $+1.4\%$ 

増減率 為替中立

セグメント利益

14 億円  $\Delta 9.7\%$   $\Delta 4.1\%$ 

増減率 為替中立

売上

増減率 為替中立

フルコアサントリー 99 億円  $\Delta 5.8\%$   $+0.4\%$ フレッシュコーヒー事業 30 億円  $\Delta 1.9\%$   $+6.4\%$ 

## 米州

売上収益

183 億円  $+7.4\%$   $+5.5\%$ 

増減率 為替中立

セグメント利益

15 億円  $\Delta 0.4\%$   $\Delta 2.2\%$ 

増減率 為替中立

最後に、オセアニアと米州です。

オセアニアは、フレッシュコーヒー事業は為替中立で増収も、フルコアサントリー社において、イースター向け活動が第2四半期にズレ込んだ結果、オセアニア全体で、売上は為替中立で微増（1.4%増）に留まり、利益は前年を若干下回りました。

米州は、Pepsiブランドの復調、非炭酸カテゴリーの伸長並びに、昨年下半年に行った値上げが奏功し増収。他方、原料高等の影響があり、利益は前年を若干下回りました。

# SUNTORY

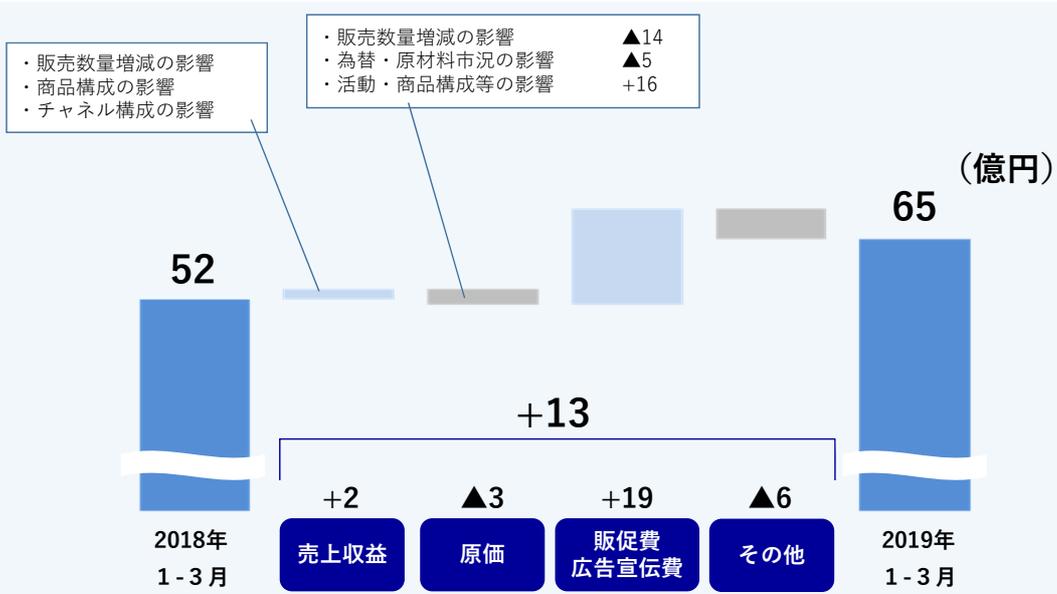
## SUNTORY BEVERAGE & FOOD

以上、セグメント別にご説明させていただきました。

日本を始め、多くのリージョンがこれから最盛期を迎えます。

構造改革を進めるとともに、最盛期に着実な成果を生み出すことで、年間業績予想の達成に向けてしっかり取り組んで参ります。

私からの説明は以上です。



## ■ 主要ブランド販売数量

### 日本

(単位：百万C/S)

	2018年第1四半期		2019年第1四半期	
	実績	対前年 増減	実績	対前年 増減
サントリー天然水	22.3	8%	23.1	4%
BOSS	24.1	6%	25.6	6%
伊右衛門	12.0	△6%	11.7	△2%
サントリー烏龍茶	5.6	7%	5.3	△5%
PEPSI	4.0	△15%	4.0	△2%
グリーンダカラ	4.9	21%	5.9	20%
特定保健用食品 および 機能性表示食品 計	5.2	△10%	4.9	△5%
日本事業 販売数量 合計	93.5	3%	95.4	2%

※出荷ベース

※上記数字には (株)ジャパンビバレッジホールディングス等による  
他社仕入分の販売数量は含まれていません。

### 欧州

(単位：百万L)

	2018年第1四半期		2019年第1四半期	
	実績	対前年 増減	実績	対前年 増減
オレンジーナ	33	△6%	35	6%
オアシス	62	△1%	61	△2%
シュウェップス	25	△1%	24	△2%
ルコゼード	79	△12%	90	14%
ライビーナ	24	△3%	21	△11%

## 2019年度業績予想(IFRS)

	2018年 実績	2019年 予想	対前年		
			増減(億円)	増減率	為替中立
売上収益	12,943 億円	13,130 億円	+187	+1.4%	+2.0%
営業利益	1,136 億円	1,100 億円	△36	△3.1%	△2.5%
既存事業ベース 営業利益	1,084 億円	1,110 億円	+26	+2.4%	+3.0%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	800 億円	665 億円	△135	△16.9%	△16.4%

## 2019年度業績予想(IFRS) (セグメント別)

	売上収益	対前年			セグメント 利益	対前年		
		増減 (億円)	増減率	為替中立		増減 (億円)	増減率	為替中立
日本	7,090 億円	+3	+0.0%	—	530 億円	+3	+0.6%	—
欧州	2,450	△2	△0.1%	+1.3%	315	+65	+26.1%	+27.9%
既存事業ベース					330	+22	+7.3%	+8.7%
アジア	2,190	+179	+8.9%	+9.9%	225	△108	△32.5%	△31.9%
既存事業ベース					225	+6	+2.9%	+3.7%
オセアニア	530	△12	△2.2%	+1.6%	65	+1	+2.0%	+4.1%
米州	870	+20	+2.3%	+1.8%	85	+0	+0.1%	△0.4%
調整額	—	—	—	—	△120	+3	—	—
連結	13,130	+187	+1.4%	+2.0%	1,100	△36	△3.1%	△2.5%
既存事業ベース					1,110	+26	+2.4%	+3.0%

(円、期中平均)

	2018年 1-3月実績	2019年 1-3月実績	2019年 年間予想
米ドル	108.2	110.2	111
ユーロ	133.1	125.2	129
英ポンド	150.8	143.7	144
シンガポールドル	82.1	81.4	81
タイバーツ	3.4	3.5	3.4
ベトナムドン	0.0048	0.0048	0.0048
ニュージーランドドル	78.8	75.1	73
豪ドル	85.2	78.5	80

本資料は情報提供のために作成されたものであり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。

本資料には、当社又は当社グループの今後の業績等に関連して将来に関する記述を含んでおります。将来に関する記述は、現在入手可能な情報を踏まえて、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実な要素を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等は、これらの種々の要素によって変動するため、本書作成時点と異なる可能性もあります。

当社は、本資料の情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありませんので、ご了承ください。